

- ▶ 会期 2021年12月3日（金）-2022年3月21日（月・祝）
- ▶ 開館時間 9：30～17：00（入館は16：30まで）
- ▶ 休館日 月曜日（ただし月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館）
年末年始（12月28日～1月4日）
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定を変更する場合がございます。
ご来館前に当館ホームページで最新情報をご確認ください。
- ▶ 料金 一般510（400）円／高校・大学生400（320）円／小中学生200（160）円
※（ ）は20名以上の団体料金
※65歳以上の方（要公的証明）、障害者手帳をご提示の方（介護者1名を含む）は無料
- ▶ 主催 京都府、京都府立堂本印象美術館、京都新聞
- ▶ 助成 一般財団法人地域創造

報道関係
お問合せ先

京都府立堂本印象美術館 担当：山田、森

TEL：075-463-0007 FAX：075-465-3099 MAIL：museum@d-insho.jp

展覧会概要

堂本印象生誕 130 年にあたる本年は、印象の創造を前・後編に分けて振り返る記念展を開催します。

後編となる本展は、「日本画家」の枠にとらわれない印象のマルチな創作活動に注目し、工芸品や美術館デザインなど、平面から立体、空間装飾にいたるまで、独特な美のセンスで彩る印象の一面に迫ります。平面から立体まで個性豊かな美意識の世界を紹介します。

みどころ

岐阜・瑞甲山乙津寺の襖絵を 26 年ぶりに特別公開！

約 60 年にわたる画業のなかでも印象が多数制作したのが、寺院の障壁画です。印象は、1950 年代半ばから日本画家による抽象表現という新たな創造に取り組み、その独自の表現は寺院空間においても遺憾なく発揮されました。本展では、印象が寺院の障壁画として高知・竹林寺、京都・西芳寺に続いて 3 番目に手がけた岐阜・瑞甲山乙津寺の襖絵（通常非公開）を展示。当館では 26 年ぶりの出品となります。

こんな印象知らなかった…!?

「日本画家」の枠を越えたマルチな創作活動に迫る！

日本画家として知られる印象は、一方で「こんなジャンルの作品も!？」と驚くような多彩な創作活動を展開しました。味わい豊かな木彫人形や豪華絢爛な婚礼衣装の下絵、晩年の集大成ともいえる美術館のデザイン。そして画家デビュー前の貴重な図案家時代の作品も！あなたの知らない印象の美の世界を覗いてみませんか？

作家紹介

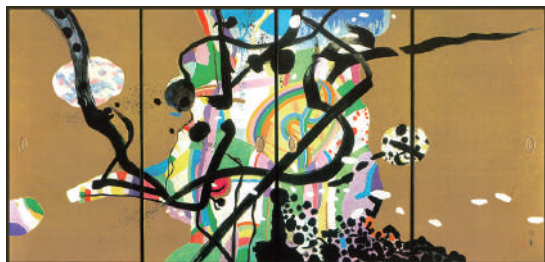
堂本印象（どうもと いんしょう）

1891-1975

1891 年京生まれ。本名三之助。龍村平蔵の工房で図案に従事していたが、1918 年日本画家を志して京都市立絵画専門学校に入学。翌年の第 1 回帝展に《深草》が初入選した。1920 年、西山翠嶂画塾青甲社に入った。1930 年京都市立美術工芸学校、1936 年京都市立絵画専門学校と母校で教鞭を執る一方、各種寺院の障壁画も数多く描いた。1933 年には、画塾東丘社を主宰して後進の育成にあたった。戦後は日展を中心に新しい現代風俗に画材を求め、1950 年代半ばからは抽象画にも取り組み、幅広い活動を展開した。1961 年文化勲章を受章、文化功労者に選ばれた。1966 年に自らの構想で自作を展示する堂本美術館を開館した。

主要出品作品

※すべて堂本印象作



超ゆる空
1968年
岐阜・瑞甲山乙津寺蔵



好転
(タピストリー下絵)
1967年
京都府立堂本印象美術館蔵



木彫人形 月影
1914年
京都府立堂本印象美術館蔵



木彫人形 車引き
1914年
京都府立堂本印象美術館蔵



茶釜 地中海
(堂本印象下絵)
1963年
京都府立堂本印象美術館蔵



茶碗 高風想思
1970年
京都府立堂本印象美術館蔵



松桐鳳凰文様振袖
三つ襲ねのうち
(堂本印象下絵)



堂本美術館ポスター
1966年
京都府立堂本印象美術館蔵

大正時代
北村美術館蔵

ギャラリー
トーク

2021年12月25日（土）

2022年2月27日（日）

時間 14：00～（30分程度）

場所 2階展示室

同時開催

京都新世代いけばな展関連事業
第3回野外いけばな展

各流派の多彩ないけばな作品が庭園を彩ります。

会期 2022年2月11日（金・祝）～13日（日）

11日午前中には生け込みの様子をご覧いただけます。

時間 9：30～17：00

場所 美術館庭園（入場無料）